

企画構想学科の理念。

小山 薫堂 | Kundo KOYAMA

1. 企画構想学科開設への想い

企画構想学科は2009年、日本初の企画を学ぶ学科として東北芸術工科大学デザイン工学部内に誕生した。

大学という“場”の本質的な価値を考えてみる。そこは、小中高と学んできたことを反芻する場であり、それを基本にしてさらに専門的な知識を身につける場であり、そして何より様々な人間関係を構築して社会へ船出するための最終準備を行う場である。しかし現実を見つめてみるならば、大学で行き先を見つけることはあっても、大学で学んだ知識を実社会で上手に活用している学生は(よほどの専門職でない限り)そう多くはない。現代の社会が、若者たちに最も求めている能力とは果たして何なのか?これからの日本の未来のために、大学としてどのような人材を作り出す必要があるのか?その原点に立ち返って辿り着いた答えが、企画構想学科であった。

社会に存在しているあらゆる問題・課題を解決に導くための知恵(アイデア)、それを生み出し実施する過程を企画と呼ぶ。今の社会で必要とされている企画の種類は多岐に及ぶ。企業が商品を守るための宣伝やブランディング、新商品の開発、会社組織の活性化、商店街の復興、地方自治体の観光及び過疎化対策、生産者の新規ビジネス開拓…等々。決して企業や団体のみに留まらず、個人レベルの商売においても、よりよき改善のための企画が常に必要とされている。つまり、企画とは、今、日本に最も必要な資源であると言える。

にも関わらず、企画を一つの学問として専門に教える教育機関はこれまで日本に存在しなかった。企画構想学科が本学に開設されたことは、近い将来、時代に適応した新しい大学のかたちの一例として語られるはずである。

2. 徹底した現場主義

企画を教えることの一番の難しさ。それは最良の正解が常に変化しているということである。人間の皮膚同様、時代に応じて求められる最良の企画は常に書ききされている。よって教員が知識や理論を教えることはできても、その時々最新の企画を指南することは非常に難しい。

その対策として、企画構想学科では従来の座学を中心とした大学常駐の教員に加え、外部で活躍する現役クリエイターを中心に教員を構成している。

企画とは、机上の作業に留まってはいけない。企画は実施、結果を出して、始めて本物の企画となる。自らが立てた企画を実施する過程において、学生たちは企画の本質に触れ、実社会でも通用する企画者へと成長する。

企画構想学科における演習は、架空の作業ではなく、本物のクライアントを迎え、具体的なゴールに向かって行うことが多い。現役で活躍している教員のコネクションをフル活用し、企業の担当者や役員をプロジェクトに巻き込むことで、本物の現場体験の機会を学生たちに与えている。

また2012年から開催している「月山青春音楽祭」は、企



写真1

画構想学科の3年生の演習から生まれた音楽フェスティバルである。音楽家の寺岡呼人氏の「日常生活の中にもっと本物の音楽を気軽に楽しむ文化を根付かせたい」という想いを、学生たちは日本一廃校の多い山形県で廃校を舞台にした音楽祭という企画によって叶えた。規模は年々膨らんでおり、2014年は二日間に渡る開催でおよそ1000人を動員。800万円の売り上げを記録している。

こうした現場作業は、一人の力だけでは遂行できない。それぞれが仲間となり、信頼しあい、時には厳しく意見をぶつけ合い、最後は協力しあって一つの作品（イベントや商品）が完成する。このような徹底した現場主義により、学生たちは発想力のみならず、コミュニケーション能力も学ぶこととなる。

3. 4年間で身につける能力とは

企画とは何か？と問われれば、私はこう答えることにしている。

「企画とはサービスである。サービスとは思いやりである。」

つまり企画の答えは、自己の中にあるのではない。他者を慮ることから全ては始まるのだ。企画構想学科の学生たちが4年間で身につける最大の能力…それは「慮る力」に他ならない。これは「おもてなし」という、世界が今最も憧れている日本文化の原点に通じる。

ところで、企画構想学科の学生たちは「幸せ」という言葉を頻繁に使う。こちらが照れてしまうほど、彼らは恥ずかしげもなく「〇〇さんの幸せのために」と言う。しかし、そん

な彼らを見ていて、私は嬉しくも思う。企画とは自分のために学ぶ学問ではない。社会を、あるいは身の回りの誰かを幸せにするために学ぶものなのだ。

世の中を明るくしていく「灯り」のような人材を、企画構想学科からこれからも送り出していきたい。

〔執筆者〕

小山 薫堂

Kundo KOYAMA

企画構想学科

Department of project Design, School of Design

教授

Professor



写真2